

スポーツイベントの誘致状況と会場の充足度

問 スポーツイベントや合宿の誘致・集客に向けた取り組みと会場の充足度について伺いたい。また、市民からの茂里町スタジアム建設の要望地である中部下水処理場はいつ廃止するのか。

答 誘致に向けては、大会や合宿等での施設の利用について、一般の利用者より優先して申し込めるよう基準の見直しを行った。また、会場については長崎国体の開催をきっかけに施設が整備されたため、全国大会から一般利用まで、十分に対応可能と考えている。平日昼間の時間帯は「空き」があるため、今後は合宿の誘致について庁内で協議を行っていききたい。なお、中部下水処理場の廃止については平成35年度を目標としている。



▲国体開催に合わせて、人工芝に整備された市営ラグビー・サッカー場

自由民主党

地方創生

問 人口減少社会の中で、活力あるまちづくりを早期に目指すため、地方創生について今後どのように取り組んでいくのか伺いたい。

答 昨年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が成立したことを受け、本市では人口減少対策推進本部を中心に5つの対策部会を設置し、今年度中での地方版の総合戦略策定に取り組んでいる。策定にあたっては「産・学・官・金・労・言」といった各分野からの意見を聞くなど、そのプロセスを大切にしている。国の財政支援を受け、地方創生を成功させるためにも、オール長崎市というスタンスのもと、その潜在力を最大限に発揮できる戦略を策定したい。

九州横断自動車道と日見バイパス

日見バイパスの完全4車線化

問 九州横断自動車道と日見バイパスの完全4車線化へ向け国に対して積極的な働きかけを行うべきと考えるが、市としての考え方を伺いたい。

答 九州横断自動車道の4車線化については、交流人口の拡大を図るうえで必要不可欠と考えており、未着工と



▲現在、2車線の新日見トンネル付近。4車線化早期実現に向けて要望活動を行っている。

なっている区間の早期事業化に向け、県と連携し、より一層の働きかけを行って行く。また、日見バイパスについては、これまでの要望活動の結果、国においても、その必要性について、一定理解が深まっていることから、今年度は重要な年になると考えている。市や市議会等で構成する「一般国道34号道路整備促進協議会」を中心に、県とも連携を強化し、より積極的に働きかけを行いたい。

（個人質問）

明政クラブ

乳幼児医療費助成制度の拡大を見据えた小児科の医療体制

問 制度の対象が拡大された場合、受診者の増加が予想されるが、今後の取り組みについて伺いたい。

答 本市における夜間、休日を含めた小児科の医療体制については、医師会

や大病院、各病院の勤務医の協力により、一定整備されているものの、小児科の医師及び医療機関の数が限られており、流行期の混雑解消は厳しい状況である。今後、引き続き協力が得られるよう努めるほか、長崎県の小児救急電話相談等の活用や、平日頃からかかりつけ医をもち、相談するように周知・啓発を行いたい。



▲厚生労働省ホームページより

や大病院、各病院の勤務医の協力により、一定整備されているものの、小児科の医師及び医療機関の数が限られており、流行期の混雑解消は厳しい状況である。今後、引き続き協力が得られるよう努めるほか、長崎県の小児救急電話相談等の活用や、平日頃からかかりつけ医をもち、相談するように周知・啓発を行いたい。

MICE施設建設や公会堂存置などについての住民投票の実施

問 市長選挙が無投票となったことを受け、現在の財政状況におけるMICE施設建設や公会堂存置などについて民意を得るためにも住民投票を行うべきと考えるが、市長の見解を伺いたい。

答 個別施設の是非を問うなどの住民投票については、条例に基づくものではない。投票結果に法的拘束力を持つものではない。そのため、二元代表制の中で、市民の代表である議会として議論を重ね、決定していただきたいと考えていることから、現時点では実施する考えはない。